

竹内 啓二ゼミナール【経済-19 クラス】

【**題目**】国際社会と生と死の問題

【**到達目標**】3年次終了までに、卒論のテーマと基本構想を確定し、第一次ドラフト(下原稿)を完成させる。

【**講義内容**】現代世界の重要な問題に、開発途上国における貧困とエイズなどの病気、飢餓による死、内戦やテロなどによる生命の危機、また、経済発展の影の面としての環境破壊などがある。そこには先進国と開発途上国との関係がからんでくる。一方、先進国では、高齢化や医療技術が高度化したために引き起こされてくるさまざまな生命倫理・医療倫理・介護や福祉の問題がある。このような生と死にかかわる現代の問題を取り上げて、その解決の道を探っていく。学問領域としては、インドを中心とする南アジアについての様々な視点からの「南アジア研究」「地域研究」と、生と死の教育(デス・エデュケーション)、「生命倫理学」、生と死にかかわる多様なアプローチを含む「死生学」に関係する。「生と死」の問題には、宗教や思想・哲学にかかわるテーマはすべて関係してくる。学生の関心に応じて、これ以外の領域についてのテーマについても柔軟に対応する。

【**授業計画**】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 死生観の比較
- 第3回 生きる意味の問題
- 第4回 現代の医療の問題
- 第5回 生命倫理
- 第6回 第1回 発表
- 第7回 ナラティブ・アプローチ
- 第8回 スピリチュアル・ケア
- 第9回 ケアの倫理
- 第10回 第2回発表
- 第11回 キリスト教と仏教の比較1
- 第12回 キリスト教と仏教の比較2
- 第13回 死別の悲嘆のケア
- 第14回 死をみつめてどう生きるか
- 第15回 第3回発表

【**身に付くように意識している汎用的能力**】

知的好奇心	◎
本質を理解する力	◎
論理的に考える力	◎
多様性を理解する力	◎
チームワークよく成し遂げる力	◎
様々な人と対話する力	◎
他者の立場と痛みを感じる力	◎
意志や情報を発信する力	◎
自ら行動する力	◎
自己を受け止める力	◎
自己反省する力	◎
自信を生み出す力	◎

【**教科書**】なし

【**参考文献**】中村雄二郎『臨床の知とは何か』(岩波新書、1992年)、東京大学大学院人文社会系研究科『死生学』シリーズ、水野治太郎『ケアの人間学』(ゆみる出版、1991年)、広瀬崇子・近藤正規他編著『現代インドを知るための60章』(明石書店、2007年)、『現代南アジア』(全6巻、東京大学出版会)、『岩波講座 宗教』全10巻、モラロジー研究所編『総合人間学モラロジー概論』(平成19年)

【**評価方法**】出席10%、レポート60%、発表、授業への参加30%

一つの学期で欠席が5回になると単位を認定しない。

【**履修の条件**】なし

【**聴講生・科目等履修生受入**】可

【**他学科生・他専攻生受入**】可

【**他学部生受入**】否

【**当該科目に関連する開設科目**】比較思想A・B、経済学基礎演習(国際社会コース)の竹内担当部分

【**使用言語**】日本語

【**担当者からの一言**】2年間のゼミを通して、卒論を書きあげるという目標を達成してください。構想を練り、資料を探し、読み込み、執筆するという努力は、社会人になっても大いに役に立ちます。卒業論文は、学生生活の総仕上げです。